

「うちの子、よその子、みんなの子」 —仲間とともに子育て

貝塚子育てネットワークの会

貝塚子育てネットワークの会は発足から15年目を迎えています。子どもの年齢に合わせた4つの部会(乳幼児・幼稚園・小学生・中高生)にわかれ、それぞれ貝塚市立中央公民館と一緒に、講座や座談会、レクリエーションを開催して、親と子の「学び」と「仲間作り」の活動を続けています。

子育て中に学ぶことは大変なことですが、とても大切なこととして位置付けています。例えば、乳幼児期のいろいろな悩みは、子どもの発達段階を学ぶことで、かなり解消されますし、今の社会状況や教育システムを知ることで、子どもたちのしんどさや、本当に必要なものが見えてきます。

学びの中から生まれた活動

学びの中から、今の子どもたちには「遊びが必要!」と、自分の責任で自由に遊ぶ冒険遊び場「プレイパーク」の開催や、子どもたちの日常の遊び場「遊ぼう!はらっぱ」の活動が生まれました。

「プレイパーク」は年4回、雑木林とグラウンドが隣接する貝塚市子ども野外広場で春、ゴールデンウィーク、夏、秋と延べ15日間開催しています。雑木林では、お父さんたちが作ってくれた「モンキーブリッジ」や木のブランコ、滑車ロープで遊び、廃材で木工遊びをし、小麦粉からパンを作って、たき火で焼きあげます。グラウンドではいろいろな年齢の子どもたちがドッチボールやサッカーをします。

「遊ぼう!はらっぱ」は市街地の市有地を借りて、毎週水曜日、第2・4土曜日に開催しています。何にもない草っぱですが、子どもたちは夏には水やどろんこの中で思いっきり遊び、秋は虫採りに夢中になります。よく言われる三つの間(空間・仲間・時間)があれば、子どもたちはまだまだこんなにも遊べるんだと、実感しています。

いろんな人に出会おう!

私たちの様々な活動で、もう一つ大切にしていることは、大人も子どもも「いろんな人に出会おう!」ということです。講座の時の保育を自分たちで交替で

担い、「よその子」を「うちの子」のように保育しています。子どもたちは母親を求めて泣いたりしますが、工夫して保育の時間が子どもにとっても親にとっても、有意義な時間となるようにしています。

少子化の今、子どもたちにとって「よそのおばちゃん、おじちゃん、お兄ちゃん、お姉ちゃん」に出会うことは、人間関係を豊かにすることであり、親にとってもわが子とは違う年齢の子どもや、先輩お母さんと出会うことで、子育ての先を見通すことができます。

中高生ともふれあう

自分の子どもを持つまでに赤ちゃんに触れたことがなく、初めての子育てが不安だったという若いお母さんの話をきっかけに、中学生や高校生と子どもたちがふれあう機会をつくろうと、講座の保育にも中学生や高校生、大学生に来てもらったり、中学校の選択授業で、中学生と乳幼児、そのお母さんが交流する機会をつくったりしています。

「プレイパーク」でも子どもと遊ぶ「プレイリーダー」として、中学生や高校生に参加してもらっていますが、こちらの方は、「プレイパーク」が、ゲームセンターや塾しか行き場所のない彼らの“居場所”になれば…という思いもあります。

子どもを取り巻く社会状況は厳しいものでありますが、「うちの子、よその子、みんなの子」と、仲間とともに子育てしています。



乳幼児部会と幼稚園部会の大運動会